

令和3年11月11日
(2021年)

保護者の皆様へ

吹田市立山田東中学校
校長 西田 知子

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。本年度、3年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果

(1) 国語

ア) 調査結果の概要

全ての領域・観点・問題形式において全国値を上回る結果であった。しかし、いくつかの設問で正答率の低いものがあった。全国的にも正答率の低い設問ではあるものの、これらの設問に正しく答えられるよう、言語力や思考力の育成に今後一層取り組んでいきたい。

イ) 課題及び指導改善のポイント

①設問2一

意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択するという設問。

正答率は全国値を少し下回っている。語句や文法、段落構成などの使い方について定着していない生徒がいると考えられる。

②設問3四

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか、また、そのような接し方をどう思うかを書く設問。正答率は全国値を下回り、

また、無解答率も他の設問と比べると高い。文章に表れているものの見方や考え方を捉えていない生徒や、それに対して自分の考えを整理して表現できない生徒がいると考えられる。

【指導改善のポイント】

- ①段落の構成を伴う作文の練習を取り入れる。
- ②自分と異なる意見について考える場や自分の考えを表現する場を設けるため、ペア学習やグループ学習に加え、ディベート等の状況に応じた言語活動を検討する。

(2) 数学

ア) 調査結果の概要

すべての領域で全国値を上回る。特に、記述式の問題の正答率が全国値に比べ高く、無解答率も全国値に比べると低い。しかし、問題形式の中で、記述式の問題の無解答率が他の問題形式に比べ高い。

イ) 課題及び指導改善ポイント

①数と式／設問6(3)

四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する問題。正答率は全国値を上回り、無解答率は全国値を下回る。

②図形／設問9(3)

ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見出し、それを数学的に表現する問題。正答率は全国値を上回る。しかし、無解答率が全国値とほぼ同じである。

③関数／設問7(2)

与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する問題。正答率も無解答率も全国値をやや上回る。

④資料への活用／設問8(2)

2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いること的前提となっている考えを選ぶ問題。正答率が全国値をやや下回った。

【指導改善のポイント】

- ①基本的な知識を定着させることを目標として授業をする。
- ②日常における事象を数的な解析をすることに興味をもち、分析できる力を養う授業をする。
- ③意見を述べたり、自分の考えをまとめ説明する機会をつくり、記述式の問題に対して無解答にならない態度を養う。

II. 生活習慣や学習環境に関する調査結果

(1) 学習環境・生活環境について

質問(6)『自分には、よいところがあると思いますか』では、全国値を上回っており、自尊感情や自己肯定感が高くなっているといえる。

また、質問(18)『学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか』では全国値を上回っており、学習環境が整っていることが見て取れる。一方で、質問(17)『家で、自分で計画を立てて勉強していますか』については全国値を下回っており、見通しをもって、自ら計画を立て勉強に取り組む姿勢を育むことが急務といえる。

生徒には、学校のみならず家庭でも自主的な学習を行えるよう成長してもらうべく、各教科や総合の時間、道徳の授業などで自ら学ぶ重要性を浸透させていきたい。

(2) 教科・学習について

質問(39)『総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか』では、全国値を上回っている。一方で、質問(15)『自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか』では全国値を下回っており、どんな場面においても、言語活動の楽しさに気づくことのできるように指導していきたい。

また、質問(21)『学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか』についても、全国値を下回っており、学校の朝読書を活用しながら読書習慣をしっかりと定着させ、読書の良さに気づいてもらいたい。

教科については、質問(43)『国語の勉強は好きですか』質問(61)『英語の勉強は好きですか』については全国値を上回っている一方で、質問(53)『数学の勉強は大切だと思いますか』、質問(44)『国語の勉強は大切だと思いますか』については、全国値を下回っていることから、自ら、その教科の学習の大切さに気付くことができるよう指導していきたい。

III. 学力向上のための今後の取り組み

本校では、学校経営方針に「生徒が学ぶ喜びを知る授業づくり」を明記し、授業規律の徹底と授業改善に取り組んでいます。また、保護者の皆様には学校教育に関心を持っていただき、ご支援・ご協力も賜っています。そのお陰で、調査結果は学力面だけではなく自尊感情や自己肯定感といった生徒の内面に关わる数値も向上傾向にあります。そこで、本校の取組内容を以下のように分析し、さらに課題が解消されるよう継続的・重点的に取組を進めていきたい。

【学習意欲の向上に向けて】

(1) 主体的・対話的で深い学びについて

質問(31)『1, 2年生の時に受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達と考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか』では、否定的な回答が全国値を上回っており、今後、各教科で生徒主体の活動の機会を増やしながら、生徒自身が深い学びを得られるよう取り組んでいくことが急務である。

(2) 個に応じた指導と情報機器を活用した教育の推進

基礎的・基本的な学習内容を確実に習得できるよう少人数分割授業など、個に応じたきめ細かな指導を行う。また、質問(26)『1, 2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか』では、肯定的な回答が全国値を上回っており、今後もコンピュータやプロジェクター等の情報教育機器を活用することで学習意欲を喚起し、学力向上を図っていく。

【生活習慣の確立に向けて】

現在、子どもたちは落ち着いた態度で学習に取り組んでいますが、生徒一人ひとりの生活リズムの向上は、地域社会の協力もいただきながら、保護者の皆様と協働して取り組んでいくことと考えています。今後とも、ご理解、ご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。